

指導資料



鹿児島県総合教育センター

複式教育 第56号

—小学校対象—

平成18年5月発行

複式学級における算数科学習指導の工夫

複式学級における学習指導のよさは、少人数という特性を生かして、子ども一人一人の学習状況に応じた十分な指導や間接指導などを通して、自力解決の力や自主的な学習態度をはぐくむことができることである。

しかし、一方では複数学年を同時に指導することから、指導計画作成や毎時間の授業準備などに多くの時間を必要とするといった課題もある。そのため、子どもの実態や両学年の目標・内容を明確にしないままに指導計画を作成したり、機械的に「ずらし」や「わたり」を取り入れただけの授業になったりすることがある。これでは、子どもたちの学習状況に応じた基礎・基本の確実な定着を図る授業の実現は難しい。

そこで、本稿では以上のような課題を解決し、複式学級のよさを生かした学習指導をどのように進めればよいのかを、算数科の学習指導の工夫を例に、以下の3点について述べる。

- 学習状況の把握と生かし方
- 1 単位時間の指導過程における学習指導の工夫
- 間接指導における指導の工夫

1 学習状況の把握と生かし方

少人数であるというよさを生かすためには、一人一人の学習状況を確実に把握することが、何よりも大切である。さらに、学習指導の中で、それをどのように生かしていくかのを検討し、授業を工夫・改善していくことで、子どもたちに確実な基礎・基本の定着を図ることが可能になる。

(1) 把握の手順

ア 各学校で作成している観点別学習状況の評価規準を基に一人一人の学習状況を見取り、個人カルテを作成する。(表1)

イ 個人カルテを基に、題材ごとの学習状況を一覧表にする。(表2)

表1【個人カルテ】の例
[ひきざん(1)全11時間] 名前()

観点	題材の目標
関心・意欲・態度	生活の中から減法が用いられる場面について考え、意欲的に解決しようとする。
評価 ○	具体的事項 友達と一緒に問題づくりをする活動には意欲的に取り組んでいた。
観点	題材の目標
数学的な考え方	文や絵から減法の場面についてとらえ、具体物や半具体物を用いて計算の仕方を考えることができる。
評価 ◎	具体的事項 求差を用いる場面において、学習したことを使って解くことができた。

表2【題材の学習状況一覧表】の例

ひきざん(1) 全11時間		関・意・態	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
名前					
A		◎	○	◎	○
B		○	○	○	△
C		◎	△	○	△
D		△	◎	○	△
E		○	○	○	△
平均値		2.2	2.0	2.2	1.2

*平均値は◎3点○2点△1点として算出する。

(2) 実態把握の生かし方

表1の個人カルテから、子ども一人一人の伸びやつまずきを明確にして、直接指導時の個へのかかわり方や指導内容を吟味する。

表2の題材の学習状況一覧表から、それぞれの学習状況が題材別にとらえられる。これらの把握により、指導過程を工夫・改善することが可能となるだけでなく、このデータは年間指導計画の見直しの際の重要な基礎資料となる。

2 1 単位時間の指導過程における学習指導の工夫

授業の指導過程を構想するに当たっては、子どもの学習状況を踏まえ、両学年の指導内容を明確にし、それを確実に身に付けさせることができる指導過程を検討する中で、「わたり」や「ずらし」を工夫・改善することが大切である。

(1) 指導内容の明確化

全学年の教科書の題材を一覧表にして、各題材内容と前年度の子どもの実態を基に、特に指導を要する項目を明確にする(表3「題材一覧表」参照)。このように、具体的な指導事項を一覧表にすることで、重点化を図るべき指導内容が明確になる。これは、複数学年を指導することから生じる時間不足を解消することにつながる。また、前年度、つまずきがあった指導内容の補充指導が可能になる。

例えば、5年生のとき「小数のかけ算」の定着状況が低かった6年生においては、

「体積」の学習の場面で図形の辺の長さを小数で示すことにより、5年生の復習を兼ねることができる。また、年間指導計画を作成する際においても、同じ領域の組合せだけで構成するのではなく、このような観点を踏まえて作成していくことも大切である。

表3【題材一覧表】
(第1学年)

内容 題材	数と計算					
	(1)			(2)		
	ア	イ	ウ	エ	オ	ア
10までの数	○	○				
いくつといくつ						
なんばんめ						
たし算(1)	○	○		○		
ひき算(1)	○			○		
かたち						
10よりおおきいかず					○	
たし算(2)				◎	○	○
ひき算(2)				◎	◎	◎
たすのかなひくのかな				◎	○	○
ながさくらべ			○			
おおきなかず					○	

(第2学年)

内容 題材	数と計算					
	(1)			(2)		
	ア	イ	ウ	エ	オ	ア
ひょうとグラフ	◎				◎	
1000までの数		○	○			
たし算のひっ算					○	○
ひき算のひっ算					○	○
いろいろな形						
とけい						

カタカナ記号は指導要領の内容の記号
◎は特に指導を要する内容(指導の重点)

(2) 指導過程の工夫

複式学級の指導過程の大きな特徴は、指導過程の「ずらし」にある。それに伴い、教師の「わたり」が生じ、直接指導と間接指導の割振りについて十分な検討が必要となる。その際には、問題解決的な学習過程であることを踏まえ、効果的な指導が実現できるように、指導過程を工夫する。

(ア) 基本的な指導過程

複式学級における学習指導を効果的に行うためには、問題解決的な学習過程に